

<目次>

●一斉地方選挙前半戦の厳しい結果を受けて～次は2025年川崎市長選！～

■動き出した南武線立体交差事業～課題は山積～

▲お知らせコーナー

☆ 4/19(水)まで。中原空襲展

☆ 4/20 市長はぜん息患者に会って話を聞け」市役所前集会

☆ 4/23(日)「ニューヨーク公共図書館・エクスリブリス」上映会

☆ 5/21(日)公害・環境、健康、まちづくりフェスタ

☆ 5/28(日)ゆめごこちライブ「李政美ライブ」

★ 編集後記

●一斉地方選挙前半戦の厳しい結果を受けて～次は2025年川崎市長選！～

今回の選挙では、「神奈川・川崎の大阪化（維新化）」の危険が鮮明になりました。県議、横浜と相模原の政令市では、維新が躍進し、共産党を上回りました。

川崎市議選では、維新は7議席を獲得し、共産党8議席にあと1差まで迫りました。2025年川崎市長選は、この維新の流れと、国言いなり・大企業優先の福田市政との2つの危険をストップし、市民のいのちと暮らしを守る川崎市政をつくる大事な決戦になることは明らかです。

同時に、明るい県政をつくる会の岸牧子候補が、65万票・23%を獲得したことは、私たちに希望を与えてくれています。

今回、維新からの立候補はなく、選挙戦の構図は同じで、岸候補は前回の70万票・24パーセントをほぼ維持した結果となっています。

また、21万票の白票という異常な結果は、岸候補の政策が十分に浸透していなかったこともわかります。

2022年から本格始動した福田市政の川崎市総合計画第3期実施計画と行財政改革は、ぜん息患者助成制度の廃止だけでなく他分野での市民の福祉と暮らしへの削減の攻撃を開始しています。

また、子育て分野では、保育士のひどすぎる配置基準もそのまま、教員の未配置を産み出す制度もそのまま、事態は深刻さをましています。

一方で、リニアの調査掘進の開始、鷺沼・登戸・武蔵小杉の再開発、図書館・市民館の民営化、西加瀬巨大物流倉庫の建設など、市民生活を壊す事態がいよいよ加速しています。

市民の意見を代弁するはずの市議会もまた、多数により市民の要望を切り捨てています。

解散前の3月市議会では、西加瀬巨大物流倉庫建設中止の請願、子どもの医療費拡充

請願、少人数学級拡充と先生の欠員をなくす請願、給食費無料化を求める請願が、次々と不十分な審議のままに、全て不採択となりました。

これらの悪政に対し、昨年、福田行革に対抗して、市民のいのちと暮らしを守る市民連絡会のネットワーク運動を開始しました。また、環境団体は独自に幅広い市民連絡会を粘り強く続けています。ここに、もう一つの希望があります。

次の政治決戦は、2025年10月の市長選です。

川崎民主市政をつくる会は、2025年市長選2年前の2023年10月までに、事務局体制の確立（新事務局長の決定）と市長候補者の推薦と、各区の会の確立を目指しています。

選挙結果のショックから立ち直り、新たな希望に向かって、前進を開始することを呼びかけます。

川崎民主市政をつくる会 代表委員 市古ひろかず

■動き出した南武線立体交差事業～課題は山積～

<今年度中の都市計画決定に向けて>

川崎市は、南武線の矢向駅～武蔵小杉駅間（約4.5km）の立体交差事業の都市計画決定に向けて動きを本格化しています。

2022年2月には、地権者向けの小規模説明会を開催し、2023年2月には、環境アセス準備書の説明会を行いました。

そして、去る4月15日には、都市計画素案に対して意見公述の申出があったため、幸区役所4階会議室で公聴会が開かれました。

公聴会では、6人の公述人（幸区5名、中原区1名）が意見を述べ、生活に直接影響を受ける住民からは、この事業に対する懸念が多く指摘されました。

川崎市は、今後、都市計画案を作成し、2週間の公告・縦覧、都市計画審議会を経て、2023年度末には、都市計画決定を行う予定です。

<川崎市による事業計画の目的の説明は～>

JR東日本南武線（矢向駅から武蔵小杉駅間）では、開かずの踏切に起因する国道409号などの渋滞や踏切遮断中の横断といった道路交通の課題、路線バスの速達性の低下、通学児童などの安全性の低下など地域の生活利便性や生活環境に関する課題、

さらには災害発生時の物資輸送を担う緊急輸送道路や広域避難場所への避難路確保など、災害に対する課題が顕在化しております。

南武線連続立体交差事業は、鉄道を高架化することにより、同区間の踏切9箇所を除却することで、地域交通の円滑化および地域の一体化による生活環境の向上や踏

切事故の解消を図る事業です。

総事業費は約1,387億円で、2024年度から用地取得を開始し、おおむね5年間で取得を終えたいとしています。事業期間は約16年を見込んでいます。

〈公聴会での公述人の意見や地権者説明会からのおもな意見は〜〉

- ・自宅が今回の別線高架工法への突然の変更で立ち退き範囲に入った。一方的な変更はおかしい。
- ・今回の工法の変更で軌道が下がるため、鹿島田駅のペDESTリアンデッキを撤去するというのは、市と住民で進めてきた街づくりの努力と歴史を無視している。
- ・工法を変更するなら、地下化、踏切下道路なども含めて、メリットとデメリットを十分に検討すべきだ。性急すぎる。
- ・移転先を自分たちで探せと言われても困る、ムリだ。
- ・事業に必要な部分だけを取得すると言うが、家の一部が削られれば移転せざるを得ない。その場合の保障は削られた部分だけというが、それでは困る。負担が重い。

(情報提供・共産党市議)

▲ お知らせコーナー

☆中原空襲展

4/14(金)～19(水)

中原市民館・1階ギャラリー

主催：川崎中原の空襲・戦災を記録する会

連絡先：080-1324-0141/ma24zart999@yahoo.co.jp

☆「市長はぜん息患者に会って話を聞け」市役所前集会

ぜん息患者医療費助成制度廃止に反対する4.20市役所前行動

4/20(木)11時半～13時

場所 川崎市役所前

よびかけ

川崎公害病患者と家族の会、川崎公害根絶・市民連絡会、他

☆「ニューヨーク公共図書館・エクスリブリス」上映会

4/23(日)① 9時 ② 13時30分

かわさきゆめホール

一般：1000円、障がい者：500円、学生以下：200円

主催：ゆめホールシネマ倶楽部

「ニューヨーク公共図書館・エクスリブリス」上映実行委員会

お問合せ 044-433-3003

cinema@kawasakiyume.com

<https://onl.bz/NydBUyH>

☆いのちと暮らしを守る川崎市民連絡会オープン事務局

4/24(月)午後6時半から8時半予定

リアル参加 かわさきゆめホール 201号室 (15名まで可能)

ZOOM参加 (参加希望者は、市古まで連絡 → hiroichiko@gmail.com)

内容

1. 市議選、県議選を受けての市内情勢の交流
2. 6月市議会にむけての春の大運動の提案

- ・川崎での給食無料化の運動の意義と実現の見通し (宗田裕之川崎市議)
- ・子どもの医療費助成制度の更なる改善の運動 (子ども連絡会に要請)
- ・ぜん息患者医療費助成制度の廃止に反対する取り組み (公害根絶市民連・昼間忠男)
- ・教職員の未配置をなくす請願署名 (ゆきとどいた教育をすすめる市民の会、水野栄子)
- ・上記3つ以外の運動交流
- ・都市再開発=町壊しに反対する運動から

☆第94回川崎メーデー

5/1(月)9時半開会

会場 中原平和公園 (今年から会場変更)

デモ行進 11時45分出発 武蔵小杉駅まで

☆公害・環境、健康、まちづくりフェスタ

5/21(日)11時～15時

武蔵溝の口駅ペディスタルデッキ

主催：「公害・環境、健康、まちづくり」フェス実行委員会

連絡先 川崎公害病患者と家族の会内 044-211-0391

☆ゆめごこちライブ「李政美ライブ」

5/28(日)14時

かわさきゆめホール

一般：2500円、障がい者・学生以下：1000円

主催：ゆめホールライブ実行委員会

お問合せ 044-433-3003

hall@kawasakiyume.com

<https://onl.bz/wKFk7R7>

★ 編集後記

岸田内閣の支持率が急上昇している様子。

テロ事件が起き、テロに負けずに街頭に立とうとする姿をメディアは美しく描きます。

「子育て予算倍増」の宣伝文句も功を奏したかもしれません。

岸田文雄首相は、3月17日の記者会見で、少子化対策に関し「時間との闘い」と強調しました。

政府が対策に乗り出してから30年経つそう。しかし有効な手を打てずに少子化は加速し、昨年の出生数は80万人割れとなりました。

このままでは労働者不足が深刻化し、社会の機能はマヒしていきます。

百年後に日本の人口は半分以下になるとの予測も現実のものとして語られています。

AIが失業者を生み出すという危機感が高まっていますが、むしろ労働者が不足する中で歓迎する声も上がっています。

決め手を欠く少子化対策。難しい課題のように見えますが、解決策は簡単。

累進課税の強化。富の再配分の徹底。格差是正。

お金持ちがより多くの税を負担する、消費税もない50年前の税体系に戻すだけで暮らしは楽になり、希望が持てる社会が戻ってきます。

「そんなことをしたら投資家が逃げ出す」と政府は言います。しかし、それで逃げ出す投資家は日本に要らない。(Y)